

第 36 回 圧力設備規格審議委員会議事録（案）

1. 日 時： 2025 年 12 月 22 日(月) 14:00～15：20

2. 場 所： Web 会議（ZOOM 使用）

3. 出席者（敬称略）

委 員： 朝田委員長(三菱重工)、熊谷副委員長(電中研/記)、高木(火原協)、早川(NIMS)、加藤(KHK)、小川(青学大)、佐々木(労働安全衛生総合研究所)、吉川(東大)、石毛(IHI)、猪狩(日本製鉄)、佐々木(東芝 ESS)、寺田(神鋼)、宮崎(日立)、石崎(出光興産)、関口(東京ガス)、西田(日本ガス協会)、中川(三井化学)、片岡(日揮グローバル)、長谷川(発電技検)、井上(東洋エンジニアリング)、松田(ベストマテリア)、三谷(IHI 検査計測)、小山(住化)

以上 23 名

説明者： 弥富(IHI)

事務局： 田中(HPI)

4. 配布資料：圧力設備規格委員会－36－

0 第 36 回 圧力設備規格審議委員会 議事次第

01 R7-8 圧力設備規格審議委員会委員名簿

02 第 35 回圧力設備規格審議委員会議事録案

03-1 HPIS Z103：2026 コメント及び対応及び意見_対応策コメント_最終 1

03-2 HPISZ103：2026 全文_R9

5. 議 事

委員 24 名中出席委員 23 名で過半数以上が出席しており、圧力設備規格審議委員会規則第 13 条 4 項を満たすので、委員会が成立することを確認したのち、以下の議事を進行した。

(1) 令和 7, 8 年度 委員長、副委員長、委員の紹介

令和 7, 8 年度、圧力設備規格審議委員会の委員長、副委員長には朝田氏、熊谷氏がそれぞれ就任したことが報告された。委員も新たに就任したため、委員長、副委員長を含む委員が自己紹介を行った。

(2) 前回議事録の承認

第 35 回議事録(案)(資料 35-02)が承認された。

(3) HPIS Z 103：2026 圧力機器の高温亀裂状欠陥評価方法の審議

圧力容器規格委員会圧力設備維持規格分科会・弥富主査より資料 35-03-1 に基づき、「HPIS Z103：2026 圧力機器の高温亀裂状欠陥評価方法」の書面投票時に委員から提出されたコメントまたは意見への対応策が説明された。小川委員からは 5.3 節の未対応事項（運転ができ⇒運転してもよく）に対応することで、対応策に了解が得られた。高木委員、佐々

木委員、朝田委員長からはすべての対応策に対し、了承が得られた。宮崎委員による非公開と思われる文献を引用したことの不適切性に関する指摘については、指摘のあったすべての文献が公開文献であることが熊谷副委員長から説明されたため、宮崎委員からも了解が得られた。なお、当該規格から引用された電力中央研究所研究報告に関しては、電力中央研究所に請求することにより、書面又は電子ファイルの形式で提供されることが確認された。ここで、入手不可能な資料は原則として規格の参考文献に掲載しない方針が改めて確認された。

小川委員より、JISに基づくと、6.2節の「～してはいけない」は「～してはならない」が適切であるとの指摘があり、修正することとなった。表 A.1 の用語については下記の指摘があり、必要なものは分科会で再検討することとなった。他の気づき事項は小川委員より弥富主査に送付されることとなった。

- ・ A5 「応力拡大係数」：説明文前半の簡略化が提案されたが、現状のままとする。
- ・ A21 「形状的な不完全領域」：「形状的な不連続領域」等への表現を検討する。
- ・ A38 「線形応力近似からの食み出し」：語感を検討する。
- ・ A41 「形状的に不均一な欠陥」：表現妥当性を検討する。
- ・ A51 「表面に開口している欠陥」：「表面に貫通している欠陥」等の表現を検討する。

小川委員からの追加の指摘への対応について、委員長・副委員長で確認し、確認結果を委員に通知した後、パブリックコメント募集に付し、理事会プロセスレビューに進めることについて、承認された。

(4) そのほか

事務局より、HPIS 制定、改正手順において最終審議の前に、規格本体を概ね整えた段階での中間審議を挟む案が提示され、位置づけ・必要書類等について議論された。HPI 吉川会長より、規格を作成する要件・専門研究委員会と審議委員会の役割分担・パブコメの位置づけ・規格の維持等の全体設計の再整理が必要との認識が示された。吉川会長・朝田委員長、熊谷副委員長、企画委員会・岡崎委員長、エネルギー貯槽等規格審議委員会・坂上委員長による打合せを2月上旬～中旬で設定することで合意され、事務局が調整することとなった。

— 以 上 —